



道総研

日本海北部スケトウダラ魚群分布調査結果

令和 6 年（2024 年）9 月 30 日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場

（連絡先：稚内水試 呂 0162-32-7166）

◎魚探反応量は武蔵堆西部で前年より増加し、全体平均で前年比 1.2

◎留萌沖の底層水温は前年に比べて沿岸域で低め

◎トロール採集物の主体は、海底深度 230m 以浅では尾叉長 8cm 前後（2024 年級）、230～300m では尾叉長 17cm 前後（2023 年級）、300～400m では 25cm 前後（2021、2022 年級）

1. 調査概要

雄冬岬以北の道西日本海において、2024 年 8 月 28 日～9 月 3 日に試験調査船北洋丸の計量魚群探知機 EK80 および着底トロール網により、スケトウダラ魚群分布調査を実施し、暫定的に解析を行いました。

2. 魚探反応量

スケトウダラの魚探反応量（NASC）の分布を図 1 に、目立った魚探反応がみられた調査ラインの魚探画像を図 2 に、魚探反応量の経年推移を図 3 に示しました。今年の調査では、武蔵堆北部（ライン B）や小樽堆南部（ライン F）、雄冬岬沖（ライン G）でまとまった反応がみられました。

ラインごとの平均反応量は前年から増加したところが多く、全体の平均 NASC は前年調査の 1.2 倍となり、現行の調査体制となった 2007 年以降では 3 番目に高く、前年に引き続き高い水準でした。

3. 海洋環境

留萌沖（ライン F）における水温の鉛直分布を図 4 に示しました。

今年の調査では、沿岸域（F1 付近）～海底深度 150m の海域（F2 付近）の底層水温は前年（2022 年）と比べて低い値でした。沖合域では、水深 200m でも 6℃前後と、前年より高い傾向にありました。

4. 漁獲物組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 5 に示しました。

トロール採集物の主体は、いずれの地点においても海底深度 230m 以浅では 8cm 前後（0 歳，2024 年級）、230～300m では 17cm 前後（1 歳，2023 年級）、300～400m では 25cm 前後（2 歳と 3 歳，2022 年級と 2021 年級）でした。海底深度 400m 以深では幅広い尾叉長組成の個体が採集されました。

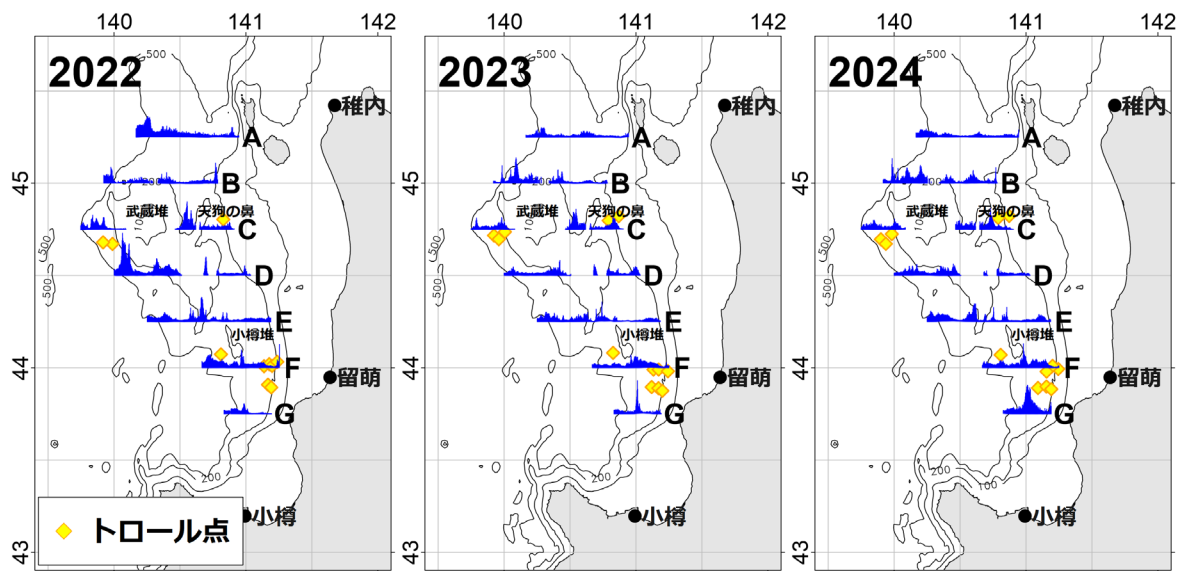


図 1. 魚探反応量の分布（海底深度 150m 以深）とトロール点の位置．

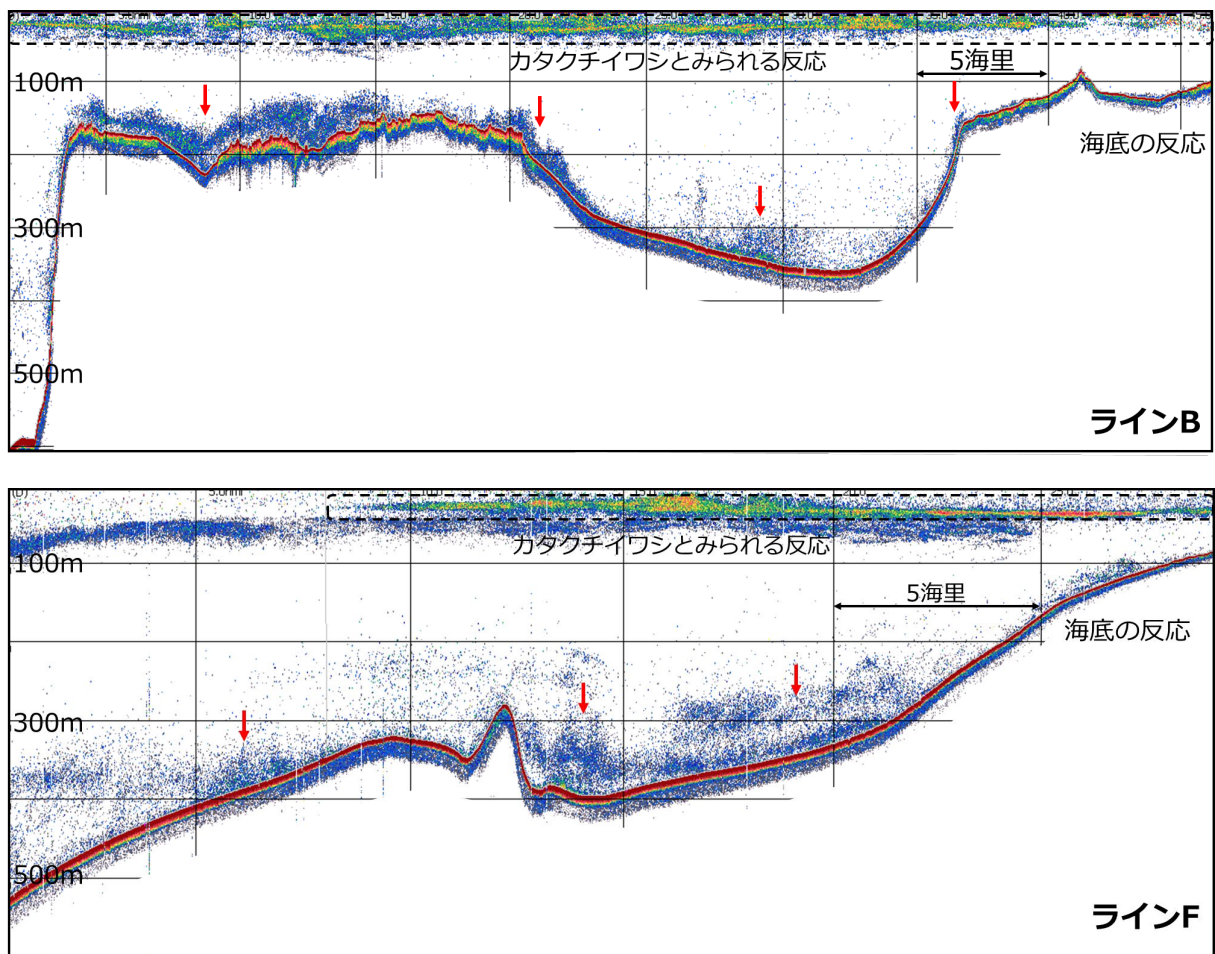


図 2. 目立った魚群反応が見られた調査ラインの魚探画像（エコーグラム）．スケトウダラとみられる反応を赤矢印で示しています．

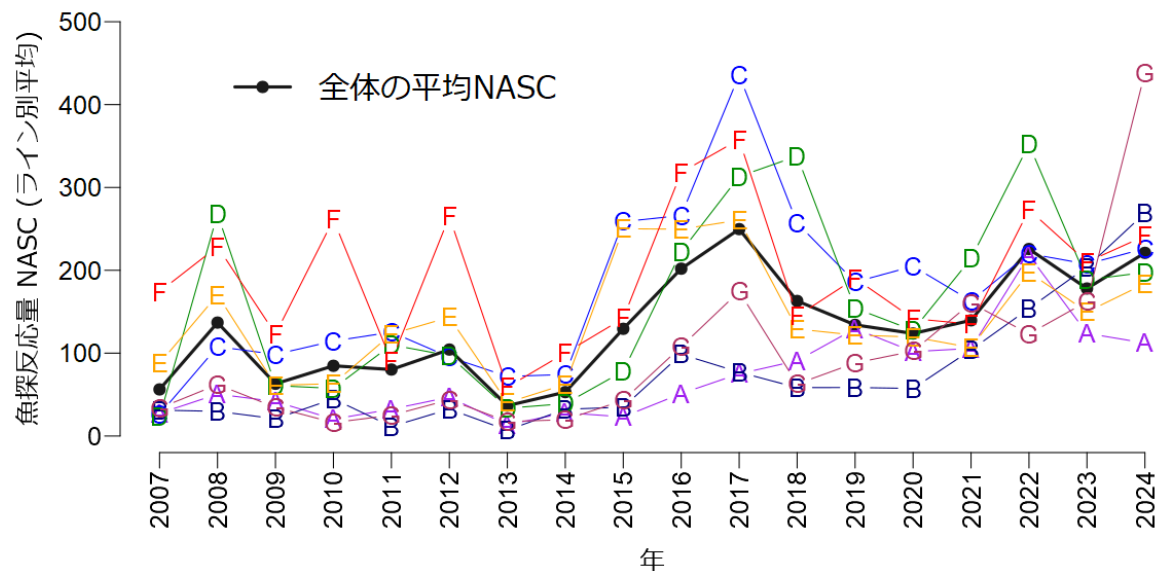


図 3. 魚探反応量 NASC の経年推移（海底深度 150～500m の平均値）.
 NASC：1 平方マイルあたりの魚探反応量で分布量の指標になります。
 図中のアルファベットは図 1 の調査ラインと対応しています。

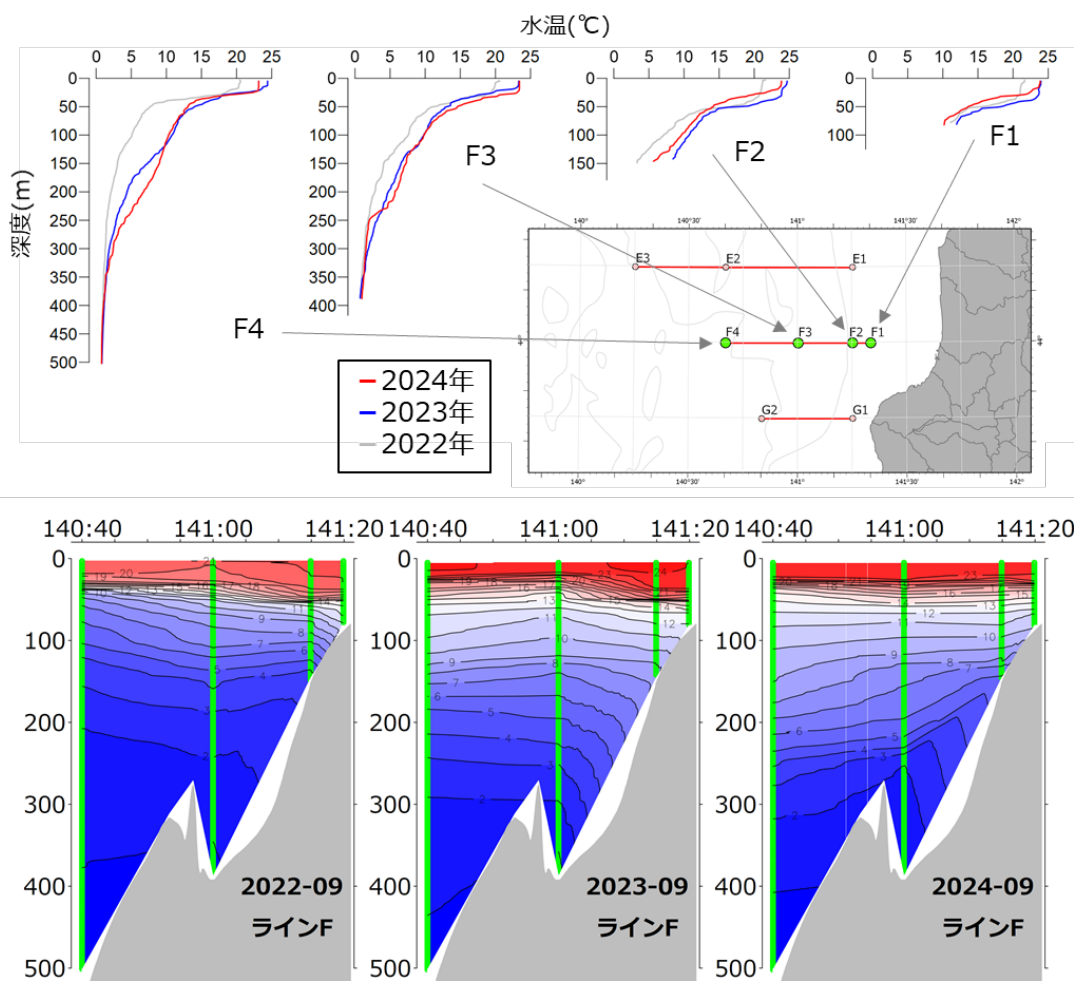


図 4. 留萌沖（ライン F）における水温の鉛直分布図。
 下図緑色縦線は海洋観測を行った地点を表しています。

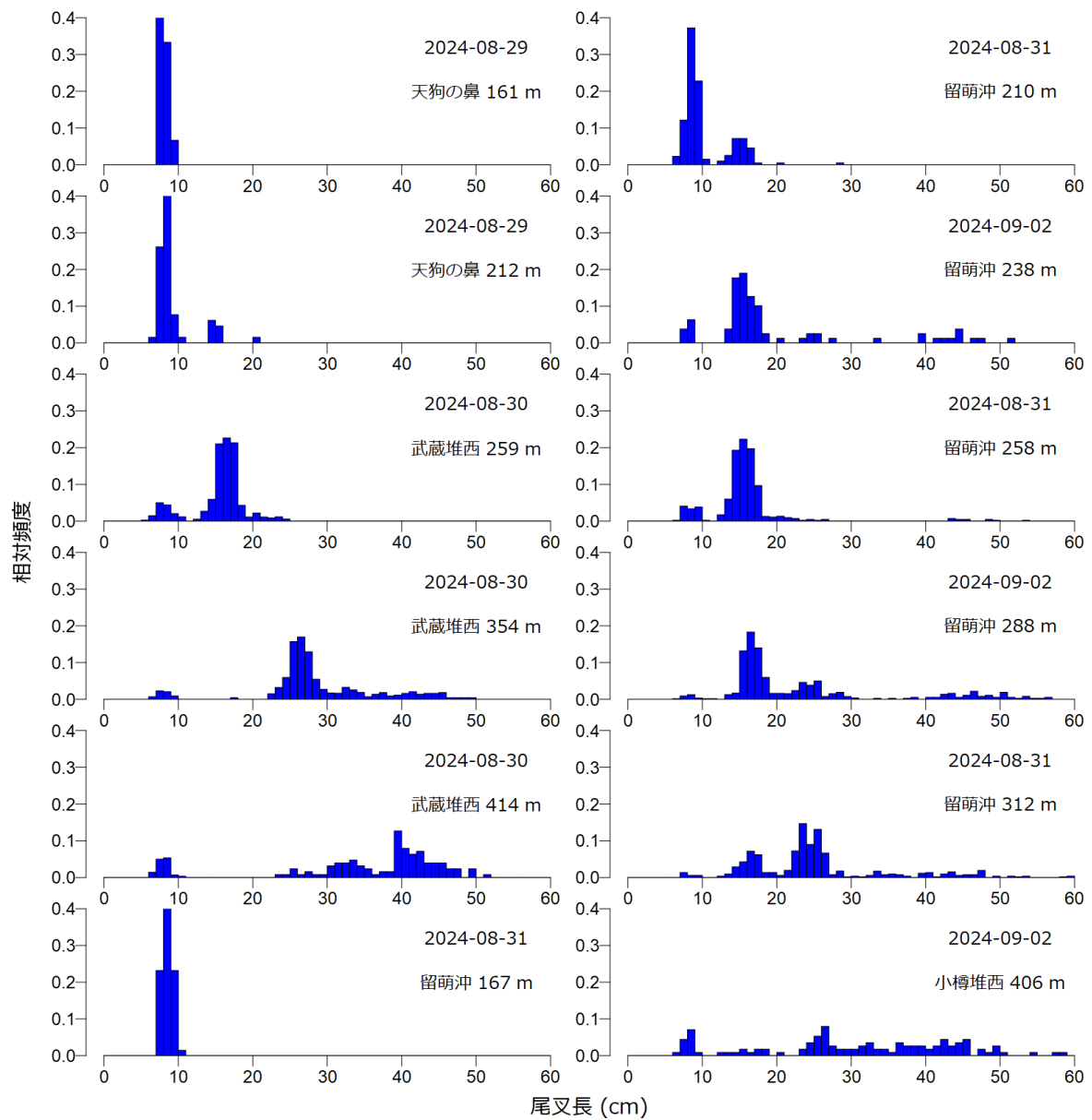


図 5. スケトウダラの尾叉長組成（2024 年 9 月道西日本海）.